吉徳の側室畠山氏の法號。

チセンイン　智泉院　大聖寺藩主第九代前田利之の側室厚見氏の法號。

チヂ　千路（チヂ）　羽咋郡邑知院に屬する部落。

チヂガタ　千路潟　→オウチガタ　邑知潟。

チヂミギン　知々見銀　慶長九年閏八月七日前田利長は令を商賈に下して、賣買には主として知々見銀を用ひしめ、若し灰吹銀を用ひる時は、時價を以て秤量換算して通用せしめた。但しこの知々見銀の性質は明らかでない。

チテン　知天　金澤時宗玉泉寺十三代の僧。桂光院其阿知天和尚といはれ、文政三年正月七日示寂した。

チドウ　智洞　羽咋郡菅原眞宗西派明專寺八代の住持。法名如達。掌持堂と號した。世に之を菅原智洞又は能登智洞と稱するものは同時に生存した京都の桃花坊智洞と別つ爲であらう。智洞十四歳にして洛に入り、内外の典籍を渉獵し海内に周遊して談義を事とし、言々海・美容編・百華園・巍々編・淘汰鈔・無礙藏・勘化文選・勘導海照・愚禿顯心抄等多くの唱導本を編述した。又俳諧を見風に學んで鏡花坊と號し、明和二年花月一夜論を著して、涼俗の俳諧二夜問答を攻撃した。涼俗のとはじ草は更に之に報いたものである。晩年河北郡談議所村養法寺の荒廢を起してこゝに居り、安永八年十月廿八日歿、享年五十二、法名を信誓法師といった。智洞が大坂の院本作者菅專助と同一人であるといふことは、初めて先哲遺事に載せられ、菅原明專寺から取つた名稱であるとして、往々世の信ずる所であつたが、それは全く誤謬である。專助は大坂の豐竹此太夫の弟子光太夫が作者としての名で、智洞の歿後寛政三年にもおはな半七花楓都模様の作を上場してゐるので、その別人であることは明らかである。尚先哲遺事に智洞を俳樸の門人としたことは桃花坊智洞と混じたものである。

チドウイコウガイヘン　致堂遺稿外編　一册。致堂横山孝誼(政孝)の雜肋詩稿その外三種を集めたもの。男政和の校する所である。

チドウシコウ　致堂詩彙　四册八卷。致堂横山政孝の詩集で、文化八年江戸層山堂西村宗七の板行。文政丙戌槃溟劉煜の序、詩佛大窪行の序、文政丙戌蓁坡林瑜の序が附せられて居る。又致堂二藁がある。四册八卷。天保癸巳碧海柴升の序、癸巳晩春致堂の自序が附せられてゐるが、出版元は記してない。しかし二書共に界紙に絳雪吟窩藏とあるから、自費出版なのであらう。

チトウシヨウゲン　智燈照玄　石川郡曹洞宗大乘寺三十三代の住持。山城の人、下司氏。業を月舟に受け、卍山の法嗣となつた。嘗て實性寺の首衆となり、次いで永平寺・洞源寺に移り、法を玉龍寺に開き、享保二年三月大乘寺に入り、一住十二年の後退院して三河黃梅寺の開山となつた。

チドウニコウ　致堂二藁　→チドウシコウ　致堂詩藁。

チトクジ　智徳寺　鳳至郡鹿江にあつて、曹洞宗に屬する。寺記に、明應九年穴水瑞源寺九代通山金達の創めた所といふ。

チノ　千野　鹿島郡八田郷に屬する部落。

チノイケ　血ノ池　白山大汝岳の南麓にある山湫で、血ノ池地獄ともいうたが、今は一小池たるに過ぎぬ。

チノウラ　千ノ浦　羽咋郡藤懸郷にある部落。

チノガハ　千野川　鹿島郡八田の山中に發し、西流して國分に至り、御祓川に合流する。

チハラ　茅原（チハラ）　石川郡湯涌郷に屬する部落。

チハラ　地原　鳳至郡本郷に屬する部落。

チヒサガタナ　小刀　→タイトウ　帶刀。

チマキ　粽　藩政時代端午の節句には一般に笹粽が製せられた。金澤では圓子を細長くし、熊笹で巻き之を蒸したもので、五本を一束と稱し、實梗繩で扇狀に結はひ、二束を半聯、四束を一聯と數へ、親戚知人の間に贈答した。笹粽製造の煩を厭ふものは、單に小豆餡を附し、又は大豆粉をまぶした長三角形の圓子とするものもあつた。殿中の奥向では、糯・粳相半した餅を五六寸の棒狀に作り、眞菰を箕の如くにして巻いた。

チヤ　茶　寶永四年著の耕稼春秋に、『石川郡・河北郡は茶園多く持て仕立商賣する者はなし。江沼郡・能美郡惡茶多く作りて賣買有。』と記する。→コマツチヤ　小松茶。ダイショウジチヤ　大聖寺茶。

チヤウスヤマ　茶磨山　金澤卯辰山上に在つて、地形斜方、南北三十武、東西二十武、三面谷を以て包み、唯西北一面のみ平地に連續して居た。天正五年上杉謙信の加賀に入つた時こゝに陣したといふが確實でない。藩政の頃その上に庚申塚を立てゝあつたが、慶應三年開拓の際削平擴張し、今はその地を玉兎岡と名づける。→コウシンヅカ　庚申塚。

チヤウスヤマ　茶臼山　河北郡鉢伏の部落北方の小丘。地質沖積層。

チヤウスヤマ　茶臼山　羽咋郡下吉田にある。寶永元年一覽記に、『末森城跡のまへに茶磨山といふ小山あり。上に神明の社あり。』とある。

チヤウスヤマクヅレ　茶磨山崩　→カンノンヤマクヅレ　觀音山崩。

チヤガマクグリ　茶釜潜　能美郡寺井町の瀬溫泉から白山への登路中、指尾の嶮を越えると、岩石の挾間を行く所をいふ。

チヤセンジ　茶筅寺　能美郡今江に茶筅寺の遺址といふのがある。能美・石川・河北三郡由來帳に、『同村領畑の内に御坊屋敷といふあり、ちやせん寺と申寺有之由にて、其跡今に茶器をいだし、寶物にいたし候。』とある。茶器といふのは祝部土器の類で、それから茶筅寺の名を作り出したものであらう。

チヤドウガシラ　茶堂頭　元祿十五年四月朔日山家宗朴・市井友仙二人の命ぜられたを以て初とすべく、役料五十俵を與へられた。御茶堂頭は御坊主頭と同じく、平士並の待遇で、袴を着けず十徳を被、蓄髪であつた。

チヤドウコガシラ　茶堂小頭　御茶堂頭の命ぜられた頃に初つたと思はれるが、沿革は明らかでない。

チヤドウボウズ　茶堂坊主　御茶堂坊主は御茶堂頭の配下で、役料三十俵を受けた。その初は詳かでないが、寛文年間に清水理閑などが勤めてゐた。御茶堂は茶を侑めることが職務である。

チヤノキマチ　茶木町　金澤の町名。舊土室小路の奥をいふ。文政四年二月城下の町名